



## ゴールドラット博士の TOC (5) (チェンジ・ザ・ルール①)

9 月①のごあいさつ  
山内公認会計士事務所  
2024 年 9 月 1 日(日)

チェンジ・ザ・ルールとはルール(考え方)を変えることである。ERP システム導入により、コンピュータシステムの真のパワーを発揮するには、根本の発想を変えなければならない。

コンピュータシステムの真のパワーとは、何か？

情報、データを処理する能力(コンピュータテクノロジー)である。

従来のシステムでは、仮にデータが総て保存されていたとしてもペーパーテクノロジーによる膨大な紙の山にしかすぎなかった。

コンピュータを用いて、部門の統合、生産、営業、総務経理などを全社ベースで総合、管理、運用することの範囲と効率(ERP システム)を想像すれば理解できるであろう。

これまでの部門最適ルールに対応していた古い会計制度、生産、営業ルールの現場からの革新である。

コンピュータシステムに変わることによって、いかに変化を起こすのか、真のメリットを享受するにはどうするか。同時にルールを変えねばならない。長年にわたって行動パターン、カルチャーなどとして形成されてきた紙によるルールである。ソフトウェアメーカーはその役割を果たしてくれない。成功を収めるためには導入企業側の対応にかかっている。企業が直面している最大の制約は、「その用いてきたルールが部分最適をベースにしたルール」であったということである。

新しいコンピュータシステムにはどのような変化が求められるのか？

ある人は、現在市場で販売されているコンピュータシステムの約 2%のコードを書き換え、更に 30%程度のコードを削除すれば用は足りると言っている。これは現場での動きとコンピュータの調整の一つである。

最も重要で困難なことは、“行動のために、どのように新しいルールを用いなければならないのか？”という問に答えることである。

従来のコスト会計は、部分最適化の考え方に基づいていた。それを踏襲する場が多いが、それでは意味がない。全体の考え方を変えねばならない。

これを変えて一体どのような会計方法を用いなければならないのか？

ABC 原価計算を主張する人もあり、スループット会計と言う人もいる。

従って最大の難問はいかに変化を起こすかによる。部分最適化ベースから全体最適化ベースへの変化である。